



- 「岩」の文字には、「山」と「石」がかくれています。さがして、下の白い文字の中に、「山」と「石」をかいてみましょう。

① 「山」をかこう



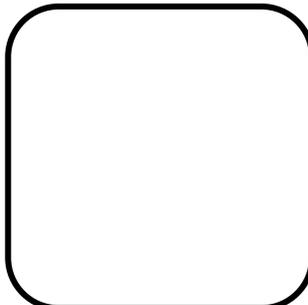
② 「石」をかこう



③ 「岩」をかこう



④ 「岩」をかこう



- 下の 文字の 中から 「国」を 8つ さがして、
○で かこみましょう。

袁	义	口	义	田	义	义	国
义	田	义	义	国	义	口	义
国	回	义	田	义	义	义	义
义	田	回	袁	义	义	国	义
义	义	国	回	义	袁	义	田
袁	义	义	国	回	义	义	口
回	义	田	义	义	国	义	义
义	国	义	义	袁	袁	义	义

- 正しい かん字を () から えらんで、
○で かこみましょう。

1 「すくない」は どっち？

- ・ しゅくだいが すくない。

(小 ・ 少)

2 「おおい」は どっち？

- ・ この えきは 人が おおい。

(大 ・ 多)

■ ふとい字の正しいよみかたを () からえらんで、○でかこみましょう。

① 作文をかく。

(さくぶん ・ こうさく ・ つくりぶん)

② 日記をかく。

(ひき ・ にちき ・ にっき)

漢字よみかきトレーニングの教材見本をお使いになる場合には、
「トレーニング1」の見本から順にお使いいただくと、一層効果的です。

本シリーズは、漢字を1文字ずつ網羅して学習するのではなく、文字学習の土台となる「文字の形を捉える力」「漢字の音や意味を正確につかむ力」を伸ばすことを目的としています。漢字のよみかきが苦手なお子さんには、カタカナや低学年の漢字の積み残しがみられることも多いため、お子さんの学年に関わらず「漢字よみかきトレーニング1」から順に学習することをおすすめします。

■17 もじわけ

◎使用方法

- ・まず上に示された漢字が読めるかどうか、その漢字の意味が言えるかどうかを確認します。
- ・つぎに問題を読みます（指導者が読んでもよい）。
- ・①、②は、指定された文字の「部品」を白抜きの中に入ります。この時、文字全体を書かず、部品のみ書くことを理解させてから取り組んでください。
- ・③は文字全体を白抜きの中に入ります。最後に④では一からお子さん自身で書きます。

◎ポイント

漢字の多くが、カタカナや他の漢字の組み合わせでできていることを学びます。見て理解することが得意（視覚優位）なお子さんにはパズル感覚で、言葉で理解することが得意（言語優位）なお子さんには形に意味づけをしながら学べますので、どのようなお子さんにも合ったユニバーサルデザインとなっています。特に、実在しない文字を書くことが多いお子さんには、繰り返し取り組みたい課題です。

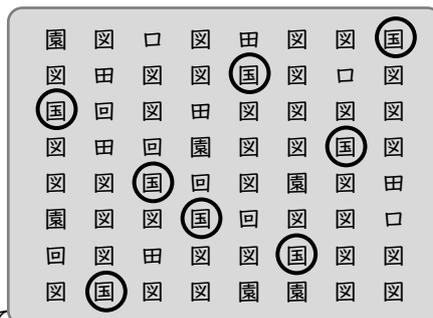
■40 もじさがし

◎使用方法

- ・枠の中に書かれた文字の中から、指定された文字を探し、○でかこみます。
- ・答えは各列、各行に1個ずつ隠れていますが、それをお子さんには伝えずにはじめてください。
- ・答えがすべて見つかったら、文字の形のちがいや他の文字の読み方等について話し合うのも効果的です。

◎ポイント

文字の形のちがいに気づくための教材ですが、音読等で行を読み飛ばしてしまっているお子さんには、目の動きをスムーズにする教材としても活用できます。答えの文字（探す文字）は各列、各行に1個ずつ隠れていますので、なかなかみつからないようであれば、他の列や行を隠しながら探すなど工夫してみてください。それを日常の音読練習等につなげていくこともできます。



■51 にていることば

解答 1 少 2 多

◎使用方法

- ・問題文をよみ、下線が引いてある文字の正しい漢字を選び、○でかこみます。
- ・文字そのもののもつ意味を伝え、文の内容とともに理解につなげましょう。

◎ポイント

似ている意味の文字やセットで覚えた文字（熟語になっているものや対義語など）を書き誤ることも、漢字のつまずきではよくみられます。そのような文字を整理し、意味を考えることの意識づけの学習になります。

■61 よみかた

解答 ①「さくぶん」 ②「につき」

◎使用方法

- ・問題文をよみ、太字で下線が引いてある漢字の正しい読み方を選び、○でかこみます。
- ・正しい読み方を理解したら、文を音読してみましょう。

◎ポイント

読み方のつまずきは、単に漢字の読みが苦手ということにとどまらず、語彙の定着に課題があることもあります。例えば「毎日」が正しく読めないお子さんでは、ことばは知っているが文字が読めない場合と、そもそも「毎日」ということばを知らない場合もあるでしょう。「人形」を「ひとかた」と読んだ場合、そのお子さんは「人形」という文字を見ても、人形そのもののイメージを思い浮かべることができていません。先生から「3色」などと言われた場合に、そもそも「色＝しよく」ということばを知らない、何の指示なのか分からないこともあります。

また、読みが苦手なお子さんのつまずきとして、例えば「名前」を「しめい」と読んでしまうような場合には、何となく文の意味から推察して知っている言葉を当てはめていることが考えられます。

その他にも、「細い」は「細かい」という使い方もありますので、読みにおいても混同しやすいポイントになります。「よみかた」の問題には、そのような苦しさへのアプローチが多く含まれていますので、1問ずつお子さんの様子を見ながらいねいに取り組んでみてください。

【著作権およびご利用について】

※本見本教材の著作権は、株式会社ククアに帰属します。

※本見本は、お子さまに実際にお試しいただくことを目的として公開しています。

ご家庭・学校・療育機関等でのおためし用として印刷し、ご利用いただくことができます。

※なお、本見本教材の全部または一部について、転載、送信、再配布、販売、その他これらに類する行為は固くお断りいたします。